



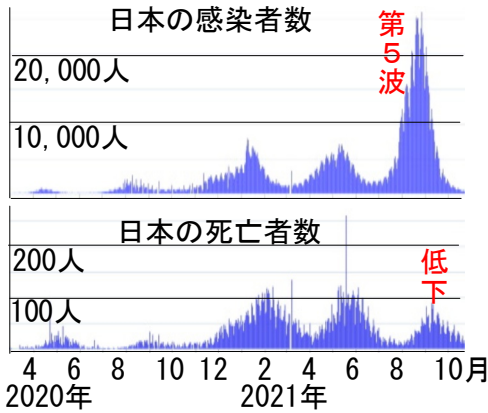
健康かわらばん

第96号 (令和3年11月号)

特集:新型コロナウイルス感染症(その3)

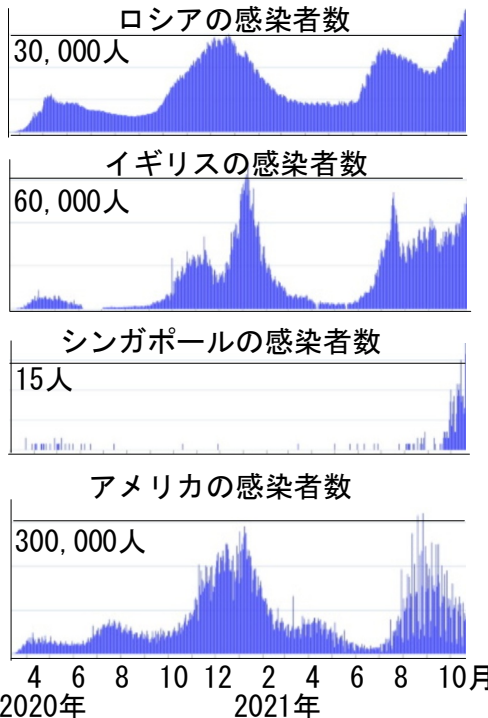
1. 日本の感染状況

都市部を始め各地で医療の逼迫をもたらした第5波がようやく収束しました。感染爆発の原因は、インド由来のデルタ株に置き換わり、感染力が強まり若年層にも感染しやすくなったため、中年層でも重症化する人が増えてきて、必要な人がなかなか入院出来ない事態に陥りました。一方で、ワクチン接種が進んだ高齢者の感染が減り、死亡率は低下しました。



2. 世界の感染状況

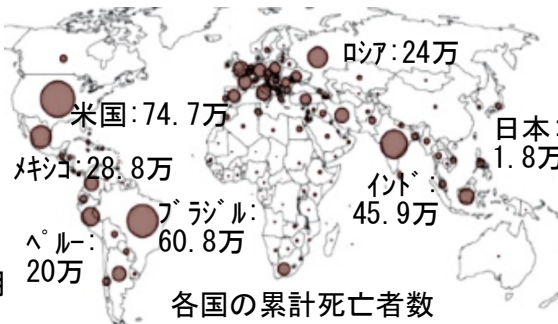
累計の感染者数はアメリカ、インド、ブラジルの順で、死亡者数はアメリカ、ブラジル、インドの順です。ワクチン接種が進んでいないロシアと、感染対策をやめたイギリスで感染が再拡大し、ワクチンや感染対策をしっかりとっているシンガポールでも原因不明の拡大が起こっています。アメリカはデルタ株で再拡大しましたが、現在は沈静化してきました。



新型コロナウイルスの変異株

名前	発見国	発見時期	指定
アルファ	α 英国	2020.09	VOC
ベータ	β 南アフリカ	2020.05	VOC
ガンマ	γ ブラジル	2020.11	VOC
デルタ	δ インド	2020.10	VOC
イプシロン	ε 米国	2020.05	VUM
ゼータ	ζ ブラジル	指定解除	
イータ	η 複数	2020.12	VUM
シータ	θ フィリピン	指定解除	
イオータ	ι 米国	2020.11	VUM
カッパ	κ インド	2020.10	VUM
ラムダ	λ ペルー	2020.12	VOI
ミュー	μ コロンビア	2021.01	VOI

VOC: 懸念される変異株、VUM: 監視中の変異株、VOI: 注目すべき変異株



3. 変異株について

ウイルスは増殖の際一定の割合で遺伝子のコピーにミスが起こり(変異)、より生存に適した変異株が出現すると、置き換わる性質があります。感染爆発した地域では当然変異株が出現しやすくなります。WHOは今後感染拡大の可能性や危険性のある変異株に地域名を入れずにギリシャ文字で命名していますが、現在アルファ(α)からミュー(μ)まで12種の変異株が指定されています(一部解除)。初期のウイルスよりも感染力が強まったイギリス由来のアルファ株が日本の第4波を、インド由来のデルタ株が第5波を拡大させました。今のところデルタ以降は世界中に蔓延している株は確認されていませんが、現在のイギリスの流行株はデルタが一部変異した株でデルタプラスと呼ばれています。今のところ、感染力・重症化には大きな変化はないとされています。

4. 治療法の進歩

第5波から、重症化しそうな人に早期に投与可能な中和抗体薬が2種類承認されましたが、これは点滴注射が必要です。軽症時に使用可能な経口薬もアメリカで新規に申請され、承認待ちの状態です。



重症化予防の中和抗体薬（点滴）



経口薬の重症化予防薬も開発中

国内でも経口薬の開発が進んでおり、飲み薬で安心して自宅療養ができる日が来るかも知れません。

5. 感染後の後遺症

我が国での後遺症のアンケート調査結果が出ました。急性期症状のだるさ、咳、息切れ、嗅覚・味覚障害は半年後にはほとんど改善していました。後から現れる症状として、記憶力低下、集中力低下、抑うつ、脱毛などがありますが、半年を過ぎても記憶力低下、集中力低下、抑うつは一割の人に残るという結果でした。後遺症は重症化した人はもちろんのこと、女性・若者・やせている人に、より多い傾向がありました。

だるさ
咳・息切れ
嗅覚障害
味覚障害
急性期の症状は徐々に改善
記憶力低下
集中力低下
抑うつ
脱毛
後から現れやすい症状



国民の7割以上が2回目接種完了。3回目も計画中。

ワクチン接種後の副反応

接種部の痛みは必発
頭痛も高頻度
若年男性の心筋炎はモデルナの傾向
高熱はモデルナの2回目が多い
だるさは高頻度
シオックは低頻度
だるさは高頻度
シオックは低頻度

6. ワクチンの有効性

現在日本では7割以上の方がワクチンの2回接種を終了しています。日本の第5波の状況を見ても、ワクチン接種により感染しにくいことや、もし罹っても重症化しにくいことが明らかになっています。ただし、接種後抗体価が徐々に下がり、感染予防効果が低下するため、今後3回目接種が予定されています。

7. ワクチン接種後の副反応

ファイザーのワクチンでアナフィラキシーショックは250万回に1回でした。接種部の痛みは9割、だるさは1回目23%、2回目70%、頭痛は1回目2割、2回目5割、38℃以上の熱は1回目1%、2回目20%でした。モデルナでもほぼ同様でしたが、2回目接種後の38℃以上の発熱が6割と高く、10～20歳代の男性に心筋炎・心膜炎がやや多い傾向がありました（100万人当たりファイザー1人、モデルナ3人）。

今回の爆発的な第5波は各地に医療の逼迫（実際は医療の崩壊）をもたらしましたが、本号を書き始めた頃から急速に収束した原因は専門家の間でもはつきりしません。ワクチン接種が進んだこと、集会・外食・移動を自粛したことは大きな要因ですが、それだけではこの急速な収束は説明できません。最近、デルタ株が元々持っていた、変異を修復する酵素が機能しなくなり、変異が重なり増殖能が低下したのではないかとの報告も出ています。いずれにしてもこれが「終息」になることを切に願いますが、世界に目を向けるとまだ感染拡大を起こしている国があります。新たな凶悪な変異株の出現はいつでも起こる可能性があります。起こるので、収束している今の間に第6波に備えることが大切です。



あともがき